

せん妄を科学する

～せん妄は脳のSOS～

せん妄は
脳の臓器障害です。
原因を探ることが
一番大切です。

せん妄とは？

急性脳機能障害 (脳の臓器障害)

急に起こり、注意や認知が乱れる状態。

“困った行動”ではなく、**脳が困っているサイン!**



なぜ原因検索が一番大切？

- ☑ 軽い体調変化でも高齢者では脳が一気に崩れる
- ☑ 原因を改善しないと、せん妄は治らない

➔ 一番大切なのは**“原因検索”!**

せん妄の分類 (活動性による分類)

① 過活動型せん妄

(暴れるタイプ)

- ・点滴を抜く
- ・大声・興奮
- ・徘徊・幻覚 など



② 低活動型せん妄

(静かに進むタイプ)

- ・ぼーっとしている
- ・眠そう・反応が遅い
- ・食量低下 など



最も多く
最も見逃されやすく
予後が悪い!

原因検索チェックポイント (よくある原因)



感染

・肺炎・尿路感染 など



呼吸状態悪化

・低酸素・CO₂貯留 など



代謝異常

・低血糖・電解質異常
・腎不全 など



脱水

・水分不足



尿閉・便秘

・お腹のトラブル



疼痛・睡眠障害

・痛み・眠れない



薬剤・環境変化

新しい薬・入院・環境変化 など

“いつもと
違う”は
要注意!

薬物療法は“危険を一時的に回避するため”

薬はせん妄そのものを治すものではありません。

転倒・点滴自己抜去・強い不穏・強い不眠など、

治療上の不利益や危険を**一時的に回避するため**に使用します。

クエチアピン
(セロケル®)

- ◎ 軽い不穏・不眠に有効
- ◎ 鎮静が穏やか
- ◎ 夜間不眠にも使いやすい

目安：12.5～25mg
就寝前から

注意：眠気・転倒・
血圧低下

リスペリドン
(リスパダール®)

- ◎ 幻覚・妄想が強い時に有効
- ◎ 少量でも効果が出やすい

目安：0.25～0.5mg
から

注意：嚥下機能低下・
錐体外路症状

ハロペリドール
(セレネース®)

- ◎ 強い興奮・危険行動に有効
- ◎ 注射も使用可能

目安：0.5～1mg
から

注意：QT延長・過鎮静・
錐体外路症状

⚠ 高齢者は少量から! 使いすぎに注意!

まずは非薬物療法 (環境調整) が重要!

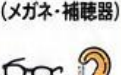
昼夜リズムを
整える



見当識を助ける
(時計・カレンダー・
声かけ)



感覚入力を
サポート
(メガネ・補聴器)



家族の面会・
安心できる環境



💡 環境調整だけで改善することもたくさんあります!

- ☑ 痛みをとる
- ☑ トイレ誘導
- ☑ 水分・栄養の確保

薬よりも大切なこと!

- ☑ せん妄を悪化させる薬を減らす
(ベンゾジアゼピン、抗コリン薬、抗ヒスタミン薬など)
- ☑ 水分・栄養を整える
- ☑ 痛みをとる・感染を治療する
- ☑ 安心できる声かけ・寄り添いが効果的



タイプ別：薬剤の使い分けイメージ

タイプ	主な特徴	使いやすい薬剤	ポイント
過活動型 (興奮・暴れる)	点滴抜去・大声・興奮 徘徊・幻覚など	ハロペリドール	安全確保を最優先 少量から慎重に
幻覚・妄想型	「人がいる」「盗られた」 「帰る」など	リスペリドン	幻覚・妄想に有効 少量で効果あり
軽度不穏・不眠型	夜眠れない・ソワソワ 軽い不穏など	クエチアピン	鎮静が穏やか 夜間に使いやすい
低活動型 (眠気・ぼーっと)	ぼーっとしている・反応遅い 食欲低下など	薬より原因検索!	眠らせる薬は危険 原因検索が最優先
アルコール 離脱せん妄	ふるえ・発汗・不穏・けいれん (アルコール離脱時)	ベンゾジアゼピン (慎重に使用)	これ以外のせん妄では 原則避ける

本日の学び

① せん妄は
脳の臓器障害
(脳のSOS)

② 一番大切なのは
“原因検索”
原因を治さなければ、せん妄は改善しない!

③ 薬は危険を一時的に
回避するために使う!

